

評価領域 分野 項目	中期目標	短期目標 (具体的施策)	成果・取組指標	自己評価	学校関係者評価	改善策			
				達成状況	評価	考 察			
教育課程・学習指導	★生きる力の育成を図る調和のとれた教育課程の編成、実施に努める。								
	確かな学力の定着、向上	○わかる喜びを味わい、支えあって伸びていこうとする子どもを育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 考えを出し合い、互いに深めあう活動を重視する。 意欲をもって主体的に学習に取り組む態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が考えを持つ、発表のし方、聞き方、絡み合う発言などを、児童観察やアンケートから推察する。 進んで学習に取り組み、わかる喜びを味わう態度を、児童観察やアンケートから推察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究部分より研修部分が大切。 教師の「授業力」を高めたい。教科指導や生徒指導などが凝縮された「授業づくり」を進めることで、子どもの抱える様々な問題に対応していけるのではないかと。全体の話し合いでは付け加えなど友達の意見を受けて話し合えるが、グループになると対立(けんか)のような口調になる。 研究等でも取り組んでいるが、行事に一年中追われ、落ち着いて学習に取り組めない感じがする。(こんなに進度が遅れたのは初めて)学力面でも、もっと定着できそうな子どもなのにできない。時間的な制約や積み重ねのなさを感じる。 挙手する児童が増えた。 友だちのなかでは、自分の考えを伝えることができているが、授業の中で、教員の前では思うように伝えることができない子どもがまだいるように思う。 なかなか自分の意見が言えない。グループでの発表はできるようになってきたが、一人一人の意見を持つことは弱い。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 教科によっては、これまでの学習を十分理解できずに、先に進んでいるような部分があるように思う。 児童一人一人の学習適応能力を育てていくことへの関わりが見え(授業の単位時間)、具体的施策の視点から考察できる面があった。 スポ少活動においても、自分自身と向き合う場の設置、自分たちに必要な事やものを自ら考える場の提供、子どもたちだけで考える時間の創出など、自ら学び考えることに視点をおくことを行っている。学校における学習指導によって、これらのことが成果として現れていると感じる。 教職員の自己評価の根拠にある「研究部分より研修部分の大切さ」は同感である。どこに時間をかけるか、効率的な指導と時間の確保は大切だと思う。 	B	<p>思ったこと・考えたことが言えるようにするために</p> <ul style="list-style-type: none"> 基盤となる学級づくりを大切に、思ったことが言える文化をつくる。 日頃からまちがいが生かされる、少数意見が尊重される授業を工夫する。 課題提示の仕方を、「易→難」になるようにし、自分も発言できた、発言できるという経験をたくさん積めるようにする。 研究で取り組んできた、ノートに書く、グループで発表する、話型に則った発表などの指導を引き続き大切にする。 話型の表(教室掲示)をもっと有効に活用したい。 <p>研究推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 班会をひらく頻度をもう少し上げ、それぞれで協議やチェックを行い、取組を推進していく必要がある。 <p>家庭学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習のしおり」を配布したが、取組の推進や啓発を図るために、点検カードでチェックしたり、アンケートを行う必要があった。家庭の協力も必要。 保護者向けのプリントは、どれほど見られていたか気になる。 自主学習は内容的な指導を学校できちんとすることが大切である。また、チェックや賞賛も行っていくことで取組の質や意欲が高まると思われる。 宿題についての共通理解を図る必要がある。
	基礎学力の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学習の基本になる力を身につけ、高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた数値目標を設定し、その達成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 数値目標について話し合いがされていない。 4月に学習規律を徹底しなければいけなかった。 スキルアップの15分間をもっと大切に使用したい。 授業の展開を意識しすぎたため、個への対応が不十分であった。 	C		<ul style="list-style-type: none"> 数値目標の設定が必要。 「スキルアップの時間」については、共通した内容に取り決めて推進していく必要はないか。 子どもが自主的に勉強する仕組みを作る必要がある。(地域ボランティアの活用、どのようなプリントを与えるかの検討も) 授業の中で習熟を図る取組を工夫したい。授業はじめの復習も大切にする。 		
	個に応じた指導の充実	○一人一人の実態に応じた支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育を視野に入れた指導内容を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の流れや指示、発問、板書等を明確にする。 成果の上がった事例を公表できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的なイメージがわかかなかったのではないかと。研修が大切。 成果の上がった事例を示せない。 授業の中で個に応じられるとベストだが、一対一での復習がどうしても必要になる時もある。放課後の時間がとれず悩んでいる。 他の先生の授業を参考に、授業のテンポや発問の仕方を工夫した。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 九九や平仮名表を持たせるなどの小さな手立ても個に応じた指導になるので、そのような手立てをたくさん集めたい。 教育機器の使用、教材教具の工夫など、個に応じた支援に役立つ研修をしたい。 個に応じた指導の対象児を各学年限定し、指導の手立て、成果の記録などをつけていくことも一方法である。 教材教具は少ないのではないかと(特に算数)?所在を明確にしておきたい。 	
健やかな体の育成	○体力の維持、向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 運動を継続的に行う取り組みを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校児童が積極的に運動する活動に取り組む。 スポーツテスト等の結果から推察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じた計画が必要。 校庭が離れていると、体の育成は学校体育でと思い、一時間の中に基礎体力づくりを必ず取り入れてきた。何か工夫が必要だと思う。 外遊びが下降の一途をたどっている気がする。一日中学校内で過ごす子どもを減らしていく手立てを考えていきたい。 業間のしっぽ取り大会やなわとび大会を委員会で企画し、運動活動を充実しようとした。 体育委員会の取り組みをきっかけに全校で遊ぶ活動ができた。継続してできるとよいと思う。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 校庭が遠いこともあり、体育部を中心に年間を通じた体力づくりの計画を作る必要がある。 朝マラソン、業間マラソンなどを取り入れることを検討したい。 体育の授業研究をしっかり行い、学習の中で基礎体力をつける工夫をしたい。 児童主体の委員会活動でのスポーツ大会は、外遊びや体力づくりのよいきっかけとなる。 		
★敬愛と信頼の人間関係を基盤にして、すべての児童が明るく意欲的に生活できる学校づくりに努める。									

生徒指導	生徒指導の充実	○教職員の協力的体制を築き、共感的理解に基づく支持的・受容的な生徒指導の充実を図り、お互いの存在を尊重し認め合う、望ましい人間関係を育成する。	・児童が落ち着いて生活を送れるように、生活目標や生活のきまりの共通理解を図り、全校体制での生徒指導に努める。	・廊下の右側歩行、履物揃え、体育館の使い方など生活のきまりを児童が順守する。 ・教育相談を定期的に行う。 ・保護者や児童のアンケートから推察する。	・それぞれが徹底されていなかった。共通理解が一つだった。 ・機会をとらえて声かけをしたり、児童から話を聞いたりした。十分ではなく、保護者の方に心配をかけたたり子どもが嫌な思いをしたりすることがあった。 ・委員会を中心とした呼びかけの成果がみられた。 ・年度始めは共通理解が徹底せず、乱れがちであったが、全職員で意識し、改善されてきた。 ・廊下歩行の指導は根気よく行ったが、改善までは至らなかった。 ・廊下の右側歩行、スリッパをそろえることは、教職員の意識でずいぶん子どもが変わると感じた。反面、特に1,2学期前半にケガが多く子どもに落ち着きがなかったように思う。教職員の心の余裕や共通理解が十分でなかったことが原因にあるように思う。 ・全校体制で取り組めることがあって意識を変えられた。 ・廊下の右側歩行、履物揃えはとてもよくなった。体育館の用具の使い方、ボールを蹴る児童が多く、破損も多いと感じる。公共の物、物を大切にすることも。	B	・年度後半においては、学校の体制を築かれて良かったと思うが、今年度落ち着きの少ない子どもの話をよく聞いたので、できるだけ早い対応ができる体制づくりを引き続きお願いしたい。 ・先生方が個々の出会い（廊下、職員室）の場で児童のことを語り合っていた。 ・スポ少活動においても、挨拶、礼儀作法の徹底については、常に意識している。また、上下関係をつくり上げ、徹底した上級生絶対主義を貫いている。学年の縦割りでの練習や活動を行い、上級生としての責任感の醸成などに努めている。練習後に、時として下級生が上級生に対して、又は大人に対して心ない発言をしていることを見受けたのは残念だが。 ・右側歩行やトイレのスリッパ揃えなど、ある程度の効果が上がったのは、とてもよいことだと思う。それを委員会からの呼びかけの効果とすれば、すばらしいことだと思う。上学年の意識の向上が学校全体の変化へとつながっていくと思う。教職員の共通理解のもと指導いただいていることがよいと思った。	B	・全職員の共通理解が大切である。年度始めだけでなく、職員会・朝礼などで細やかに確認したい。気になること ・はっきりせず指導に戸惑う時には、そのままにせず、その都度提案する。
	給食指導の充実	○給食指導の体制を整え、望ましい食育環境づくりに努める。	・協働、交流を目指すランチルーム給食の充実を努める。	・児童観察やアンケートから推察する。	・後追いの会議が多かった。先手を打ちたい。 ・ケース会議はどの学年も学校全体で支援していこうとする姿勢が見られた。全員が知り、色々な面から支援するという点で有効だった。 ・その都度、ケース会議を開けた。その後全職員に周知することを確実にしたい。 ・日頃の児童の「つぶやき」を大切に児童理解に努めた。 ・組織でいろいろなことに対応しているが、機能しているかどうかは疑問に感じる部分もある。	B	・ランチルーム給食ができるだけできるようにしてもらいたい。	B	・今年度は、数多くの支援会議を行った。時間を多くとることになったが、悩みをかかえる児童をどのように支援すべきかを慎重に時間を取って話し合うことが大切である。丁寧に対応していきたい。
道徳教育	★心の教育を推進し、生命と人権を尊重し、互いに認め合う潤いのある学校づくり								
	道徳教育の推進	○道徳的実践力を養い、生活や社会の中で実践できる子どもを育てる。	・自他を思いやり大切に学校を目指す、心に響く道徳教育を推進する。	・道徳の時間で充実した指導を行う。 ・各教科等において道徳的な観点を持たせ、道徳性を育む指導を行う。	・全校一斉に取り組む重点的指導も必要。 ・自分の考えを持つことができない子がいる。また、話し合いでいいことを言っても、なかなか行動に結びつかない。 ・廊下などでまだ乱暴な言葉が聞かれるのは残念。廊下側がガラスになっており、開放された雰囲気はとても良いが、一学年乱れると下の学年はそれに習ってしまうので、高学年こそ律してほしい。 ・一つのできごとをきっかけに話し合いをもつことができた。友だちのために強くなるように子どもを伸ばしてあげられた。 ・清掃活動を通じて、集団活動における道徳意識を持たせるように努めた。	B	・言葉遣いの悪さ、乱暴な言葉が発せられる場面などを見受ける。大人や先生、指導者がいない時に、これらの発言があった場合を想像すると少し恐ろしい気がする。家庭にも必要だが、特に学校における道徳、人権教育は徹底した指導が必要と思われる。うわべだけでなく、心の底から、やさしく思いやる子を育てる必要があると感じる。 ・人権問題については学校だけでなく。家庭や地域の責任も大いにあると思う。学校では繰り返し何度も、日々行うしか方法がないのかもしれない。	B	・今後も道徳の時間を中心に、行事や各教科の内容とも関連を図りながら、適切な指導をしていきたい。 ・今年度の課題点を念頭に置いて、道徳の全体計画や年間指導計画を道徳教育推進教師を中心に全教員で作成し、取り組んでいく。

育、 人権教育	人権・同和教育の推進	○自他の人権を守り、大切にすることを養うとともに、それが様々な場面で具体的な態度や行動として現すことのできる子どもを育てる。	・人権尊重の視点に立った教育活動となっているか点検を行い、機を捉えて具体的に指導する。	・1月の学習公開には、どの学級も人権・同和教育に視点をあてた授業を実施する。 ・人権感覚が高まり、仲間づくりが進む。 ・いじめの実態件数0を目指す。	・「差別の実態に学ぶ」「授業研修」を是非。 ・全校で取り組み、家庭へもぼかぼかカードの記入をお願いするなど、連携することができていた。 ・人権週間の取り組みは、がんばってよかった。イベントにとどまらず、日々の細かい発言や行動に気をつけて、指導することが大切だと思った。 ・12月の人権週間から1月の学習公開にかけて学校として人権について考えることができたと思う。しかし、心ない言葉や行動もあり、まだまだ取り組んでいく必要がある。仲間づくりのために、私たち教職員が温かみのある関係に、子どもの良さを引き出せる余裕とスキルを学ぶ必要があると思う。 ・人権の取り組みであらためて振り返ることができた。	B		B	・人権標語・ぼかぼかカードなど、全校で取り組んでとてもよかった。友達や家族に自分の「よさ」を見つけてもらう活動は自己肯定感を高めることにつながった。 ・12月の人権週間から1月の学習公開まで、生徒指導と絡めた取り組みができてよかった。 ・来年度は、「差別の実態に学ぶ」研修や授業研究をぜひ行いたい。
★「地域で育てられる掛合の子」を目指し、家庭・地域との連携を密にし、開かれた学校づくりを推進する。									
家庭・地域との連携	地域素材を生かした教育活動の工夫	○ふるさとの温もりに接しながら、掛合に愛着と誇りを持つことができる子どもを育てる。	・地域の「ひと・もの・こと」とふれあう中で、「掛合」に対する興味・関心を高め、ふるさとのよさに気づいていけるようにする。	・児童の感想、作文、アンケート等から推察する。 ・各地区のよさに触れられる学習活動を計画的に実施する。	・授業による研修もしたい。 ・年間計画に地域の活動が取り組んでありよい。 ・地域学習に関しては、実際に企画をたてながらやっと分かるので、何か綴りでもあると参考になるのだが。 ・地域の方との交流がいろいろな場面でできてよい。 ・相撲大会を通して、地域の方の相撲への思いや掛合の伝統・文化を肌で感じさせるよう努めた。 ・掛合太鼓、米づくり体験等では、地域の方々との触れ合いが持ててよかった。 ・地域の方ととても連携していると感じる。伝統的に行事を大切に受け継がれ素晴らしいと思う。 ・CNさんのおかげで、積極的に地域とつながろうという気持ちになれる。(負担がなくなるため) ・地域の方々の協力が多く助かっている。 CNを中心に授業や行事に地域の力を活かすことができています。 ・CNのおかげで地域の良さを教育に取り入れることができたと思う。今後はCN制度に頼らず、教職員自身が地域を知る必要を感じている。忙しい中ではあるが、地域めぐりや地域を知ることを研修として取り入れるとどうか。	B	・地域の方々との活動は、お互いが刺激になっていて、効果があると感じる。もっともっと地域の方々を活用し、地域の知恵・文化などと触れ合うと良いと感じる。スポ少関係者も、その一員である。学校との定期的な情報交換の場をもってはどうか。子どもたちを立派な社会人になるよう育てたいという思いは、学社とも共通だから。各CNの役割は大きく、成果があったのではないかと思う。 ・ふるさと教育は、CNさんを活用し、よく行われたように思う。CN制度がなくなっても困らないような対策が必要。先生方も地域のいろいろな行事に子どもたちと一緒に参加していただき、ありがたく思っている。	B	・教職員が地域巡りをして、まずは知る。そして地域素材を見つけ、教材化していく。夏休みに研修を行う。地理的理解から人材、文化へ広げていく。 ・CN任せにしない。最初のコンタクトはCNであっても、担任も顔つなぎをして、関わりをもつようにする。そうすれば、CN不在のときにも、地域の方が学校と連絡をとりやすくなる。
	積極的な情報提供	○教育活動の計画や内容を積極的に情報発信する。	・分かりやすく定期的に情報発信し、学校理解を得るための手段としての効果を高める。	・学校、学級からの便りを定期的に発行する。 ・保護者アンケートから推察する。	・学校へ行きにくいという保護者の声をどうするか。 ・学級だよりをあまり出せなかった。 ・学校だよりが掛合町内全戸に配付されるようになり、情報提供の機会は格段に増えた。 ・校長の強い意志で、懸案であった校訓を制定し、掲示することができた。 ・専科のため、実施していない。 ・学校のHPはとて細かく更新してあるが、紙面の発行はまだ十分ではないと思う。 ・もう少しわかりやすく、はやく情報提供ができるようにしなければいけなかった。	B	・学級、校内の掲示はよくやられていた。この掲示活動でねらっている思い、願いが保護者に届くことへの施策が見えれば。	B	・統合して規模が大きくなり、教員が分からないと学校に入りにくい。例えば図書室を地域に開放する、給食を一緒に食べる機会を設けるなどして、地域開放の機会を増やす。 ・HPをもっとよくみてもらえるように、校報「ましみず」に毎回URLを掲載する。HPの行事や子どもカレンダーを携帯電話からもアクセスできるようにする。
★温かく豊かな教育環境づくりを推進する。									

教育環境整備	学習・生活環境の整備	○感性を磨き、豊かな情操を育むう るおいと温もりのある環境づくりに努める。	・学習がより行いや すい環境を整備する。	・図書主任や学校司書と協 力して、授業の資料集めや 学習の情報収集、読書活動 の場として、学校図書館を 活用する。	・学校司書のおかげで、子ども達は図書室 が大好きになっている。 ・図書室については充実しており、子ども たちが本を手に取りやすい環境が整って いるように思う。 ・司書にはすぐに本をそろえていただきよ かった。図書室を進んで活用することがあ まりできなかった。 ・図書を利用した授業を、よく構成してもら えた。 ・授業においては図書主任や学校司書の先 生と積極的な協力ができなかった。	B	・掛小には学校司書が配置されているが、 それについての情報や効果がほとんど分か らなかつたように思う。 ・掲示がよくされていたと思う。 ・破損が多いのは残念。校舎への感謝、も のへの感謝を子どもたちに分かってもらえ るにはどうしたらよいのでしょうか。	・読書推進や学習の情報センター的な役割はそのまま継続しながら、T2などで授業に関 わって学校図書館教育にかかわるサポートを行うなど、学校司書の可能性を広げていき たい。
			・備品や消耗品、学習花壇 等の整備に努める。	・教材庫、花壇の整頓、整備良かった。 ・花いっぱい活動など、全校で学校を盛り 上げる活動が計画出来れば。 ・公共物を大切にすることを全校で取り組 みたい。(学校施設の破損が多かった)	B		・備品点検を教職員で分担して確実に出来るように、今年度中に段取りを整えていく。	
		・教室・校舎内の整 理・整頓や、時機をと らえた掲示を工夫す る。	・教室や教材室、職員室等 の整頓や、掲示物の貼り替 えを適宜行う。 ・後片付けの指導を継続し て行う。 ・保護者アンケートから推 察する。	・学校全体の掲示や整理整頓を事務職にし ていただき助かった。 ・校舎内の玄関前の廊下は、工夫のある掲 示がされたと思う。 ・印刷室、教材室等、使用後にもう少し意 識して整理整頓に心がけていただきたい。 ・保健室も含め、教室の掲示物、整理整頓 は十分でないと思う。清掃指導と同じよう に、後片付け指導をきちんとしていき たい。教職員も使った後の片付けの徹底を (印刷室や自分の机のまわり)していき たい。			・準備室、教材室の整理整頓。収納場所について全教職員で実態を把握し、ロッカーも 含め収納場所を検討する。 ・鍵貸出札をつくって、管理の徹底を図る。 ・オープンスペースの整理整頓。展示期間は、学習公開日などで区切る。展示スペースをつ くる。	
	安全・維持管理	○安心して生活で きる環境を整え る。	・定期的な安全点検 と必要に応じた補 修、修繕を確実に 行う。	・定期的に安全点検を実施 する。 ・修繕補修記録が公表でき る。	・3年目で少しずつ傷んだところがあっ た。今後気をつけてみていきたい。 ・落書きや物がこわれる、トイレの使い 方など残念なことがあったが、くり返し の指導で子ども達にもつたわったの ではないか。 ・安全点検の期間を定めて実施した方が よいと思う。 ・まず教職員の安全への意識が、マン ネリから低下しないように手立てを考 えたい。	B	・グラウンドの件で、児童に不便を強 いていることが、体力の低下や外遊 び意識の下降につながっているのは 残念である。保護者と学校とが協 力しながら一体となって教育委員 会等に強く要望や、働きかけをし ていく必要を感じる。 ・見守りの先生には保護者としても 感謝したい。 ・常に安全なスクールバス運行に対 する配慮には感謝する。	・安全点検期間を絞って時間を決める。 できれば一斉にする。 ・定期点検に限らず、日頃から安全 に関わる情報はすぐ入れられるよ うにし、ヒヤリハットを減らして いく。
		・児童が安心して遊 べる場を確保し、安 全面に留意する。	・校庭の見守り、安全確認 を徹底する。 ・冬の遊び場所を確保す る。	・見守りの先生にはお世話になった。 進んで子どもが外で遊ぶように後 押ししていきたい。 ・校庭の見守りはありがたいが、申 し訳ないと思う。全職員で交代で できれば。 ・児童が安心して遊べるスペースを もっと増やしてあげたい。	・外遊びについては、全職員で検 討。 ・共用が予定されている分校校庭 が子どもたちにとってより使い やすいものになるように、教育委 員会とも連携を深めていきたい。			
		安全で確実なスク ールバス通学が できる体制を整 える。	・利用のしかたにつ いての指導を徹 底する。 ・保護者や関係機 関との連絡を確 実にを行う。	・児童の指導を定期的に行うこと。 保護者の方にも関心を高めてもら いたい。 ・松笠でメールが受けられない家 庭があり、時と場合に応じてどう した対応をすればよいか迷うこと があった。(積雪でバスの路線が 変更になる場合など) ・スクールバスに関しては教育支 援CNによくやっていただき、助 かっている。	・教育支援CNに小中のとりまとめ や関係機関との調整をもらい、 通常ダイヤ変更の決定もしてもら う。 ・決め細やかな対応が難しいので、 冬季ダイヤを一定期間固定しては			